

発電船改修事業



本事業により改修したクルナ発電船

[借 款 概 要]

承諾額/実行額	1,561百万円 / 1,561百万円
借 款 契 約 調 印	1993年9月
借 款 契 約 条 件	金利1.0%、返済30年（据置10年）
貸付完了	2000年2月

[事 業 概 要]

円借款により建設・設置された発電船2カ所（クルナ及びチッタゴン）を改修することにより、両地域への安定的な電力供給に寄与するもの。

[評 価 結 果]

本事業の修復対象とした発電船は、1979年及び84年の円借款により建設された。完成後の運営面の問題に対処するため、JBICは1988～89年に援助効果促進調査（SAPS）を通じて改善策を提言したが、バングラデシュ政府の自己資金では十分な対応が困難であったため、本事業により支援したものである。

チッタゴン発電船（1986年完成、28MW×2基）については、1997年に改修工事が完了した後、発電量は回復しピークロード用として電力の安定供給に寄与している。

他方、クルナ発電船（1980年完成、28MW×2基）については、1995年に改修を行った後96～98年には発電量を回復したが、その後1号基は1998年3月の火災事故のため運転が停止されている。また、2号基も1999年に発電機交換及びサイト周辺の浚渫工事のため運転が一時停止された他、発電機の振動問題のため発電は設備能力を下回る20MWに制限されている。

このため、バングラデシュ電力庁ではクルナ発電船の更なる改修計画に着手しているが、今後の発電船の運営・維持管理については、職員の技術水準の向上、スペアパーツの調達等が課題となっている。